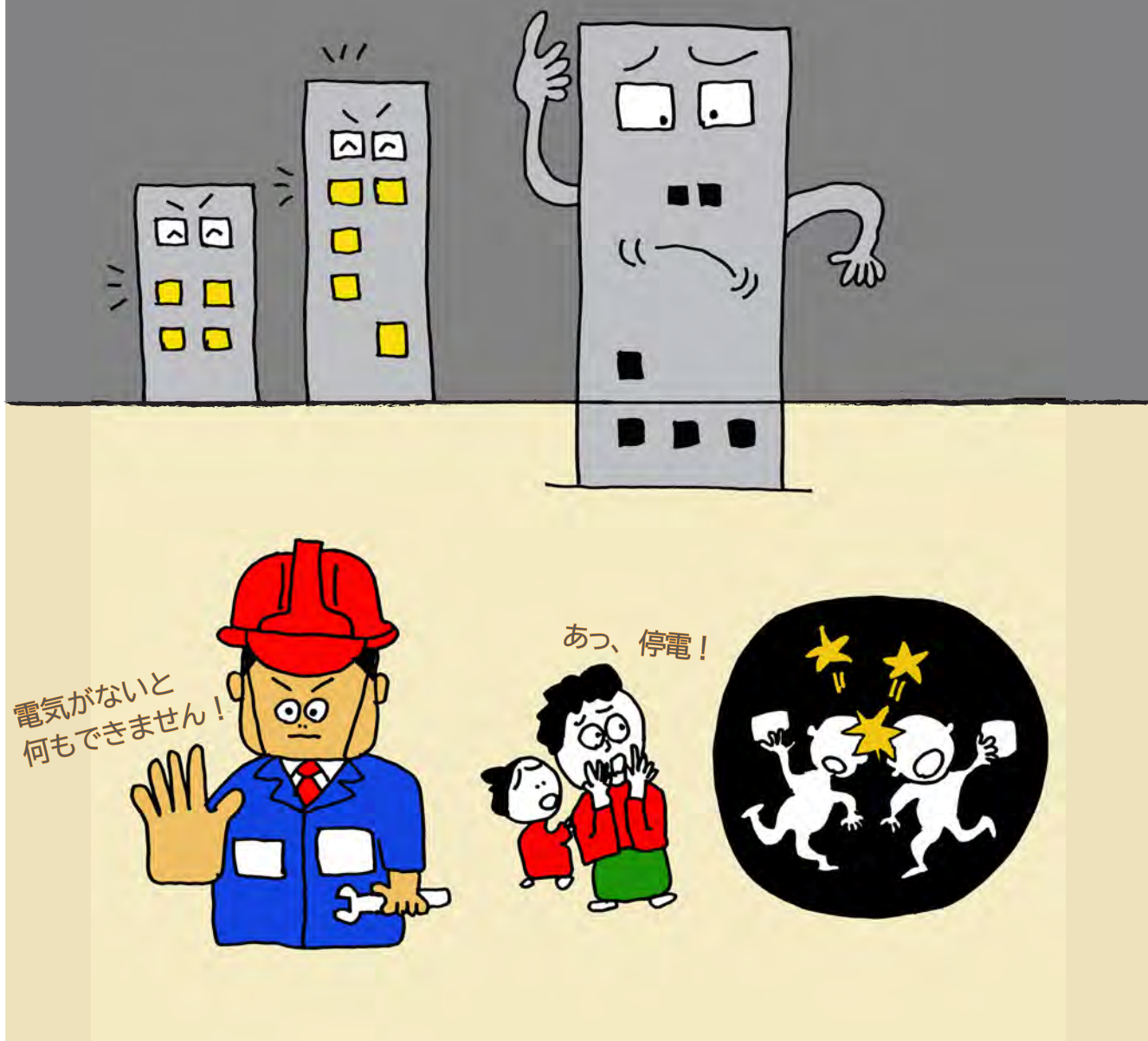


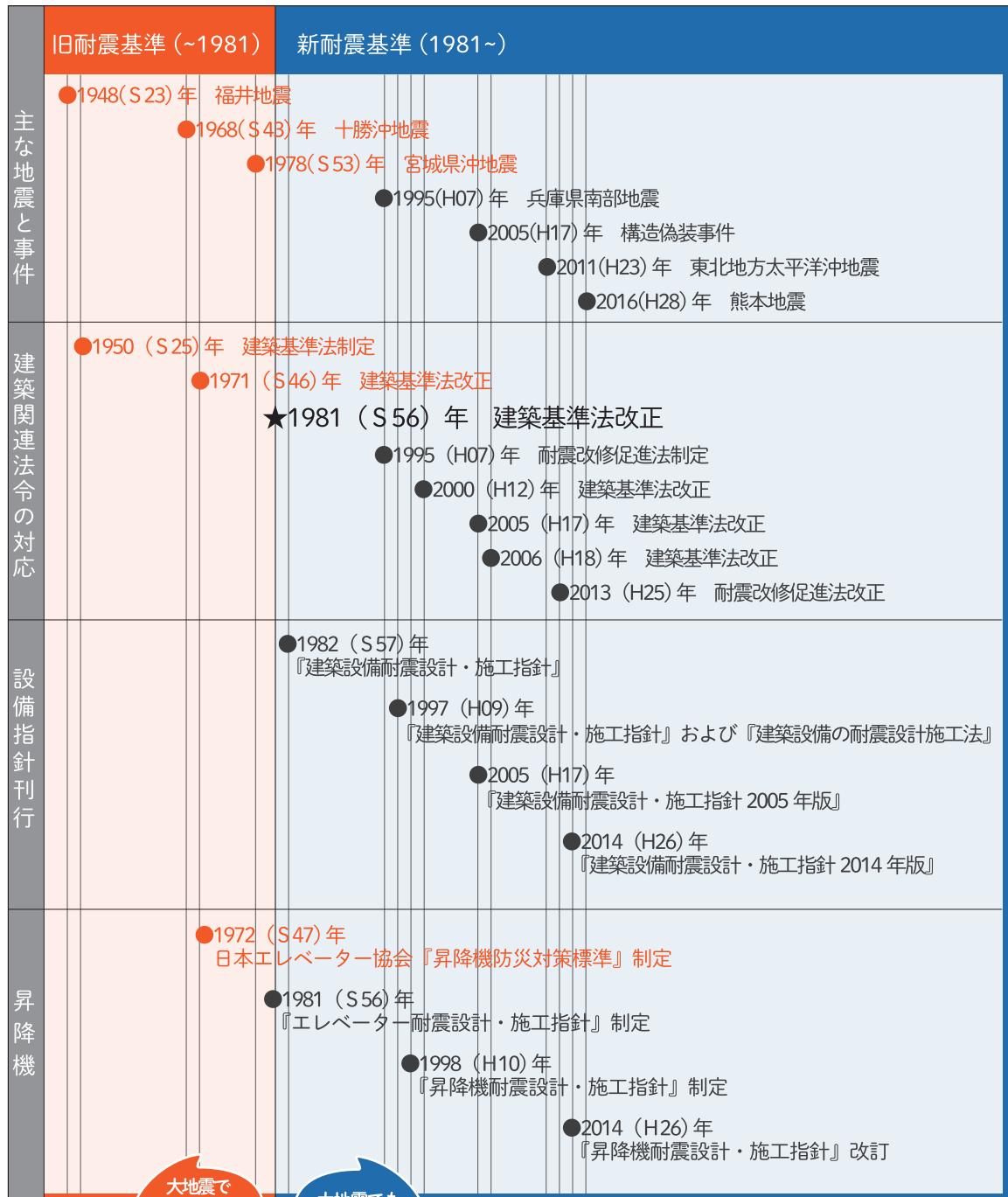
ライフラインを 地震から守るための対策 4

電気・昇降機設備編



建築設備の耐震基準

設備の耐震基準は、「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」（日本建築センター刊）が、行政上の指導書に位置付けられ、設備の耐震基準となっています。大地震による被害を受け、規準を見直し、これまでに 1982 年版・1984 年版・1997 年版・2005 年版・2014 年版と改訂を重ねてきています。



大地震で人命を守れない可能性

大地震でも人命を守る



大震災が起きた時に本当に困る事はなんですか？

電気が止まったら？

エレベーターが使えなくなったら！



◆照明器具類 落下破損

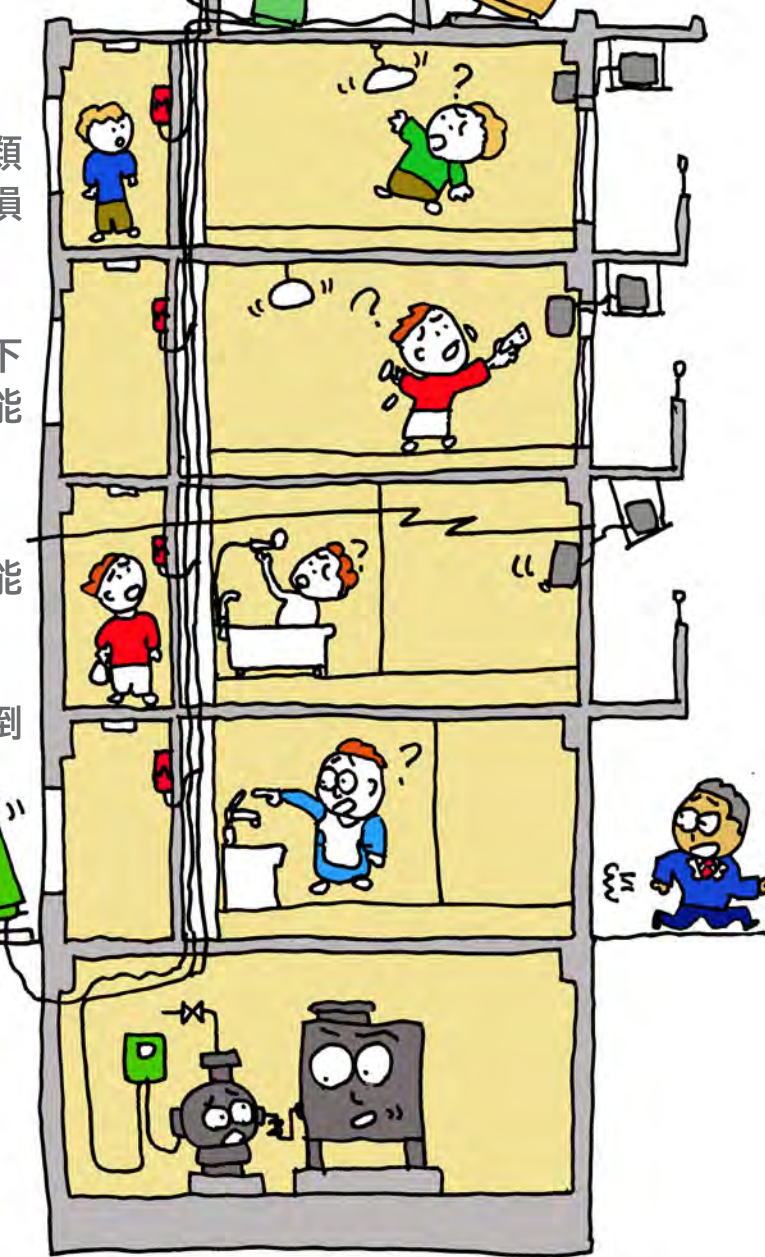
◆エアコン落下 運転不能

◆停電で 給湯運転不能

◆引込み盤転倒

◆引込み線破損

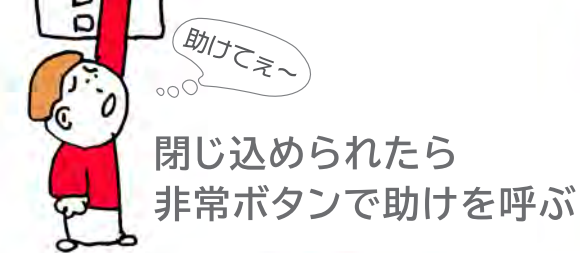
停電で給水設備 運転不能



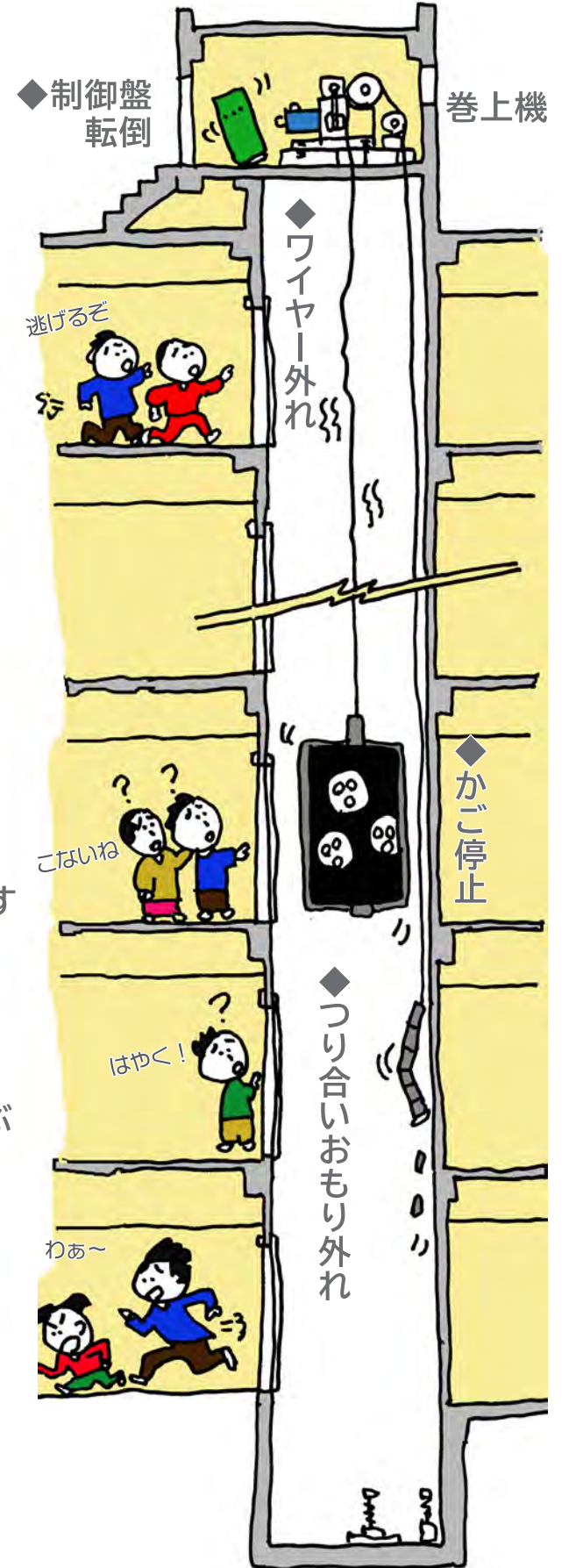
地震の時は エレベーターに乗らない！



古いエレベーターは 自動停止装置がない場合がある

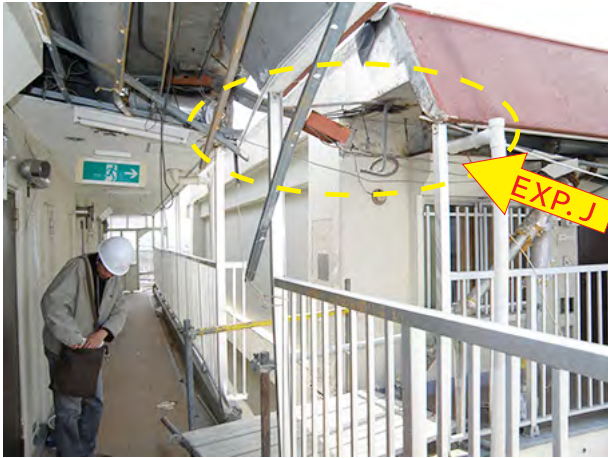


エレベーターの 地震時管制運転装置や耐震化を図ることが必要である



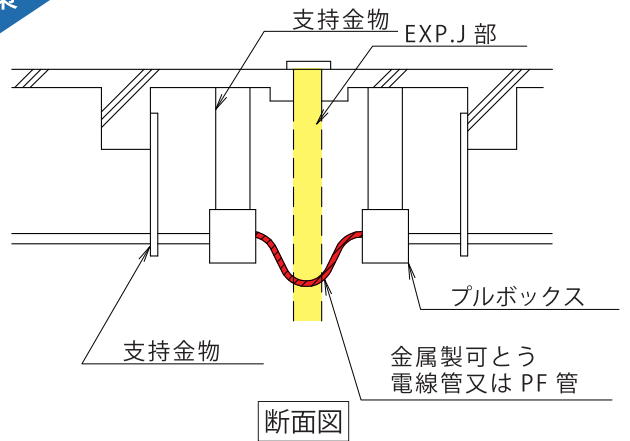
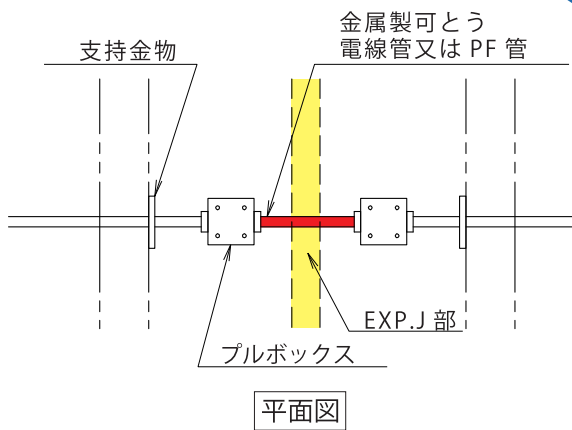
電気配管・配線などの耐震措置

建物のエキスパンションジョイント (EXP.J) を通過する設備配管は地震時のリスクが高い



2011年東日本大震災におけるマンションの被災例

EXP.J部の対策

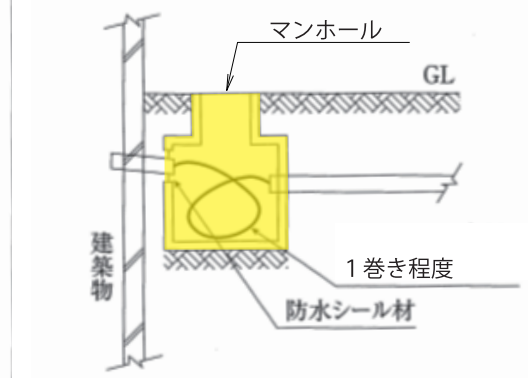
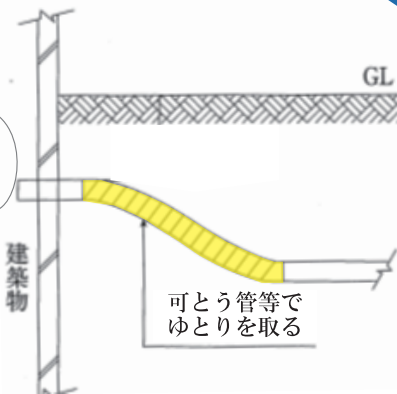


エキスパンションジョイントの配線例

(出典：国土交通省大臣官房官庁営繕部 公共建築工事標準図(電気設備編)平成31年版 P133)

建物導入部の対策

耐震診断を実施して耐震化を図ることが必要である



建物導入部分における引き込み電線管工事の耐震措置例

(出典：建築設備耐震設計・施工指針 2014年版 (一財)日本建築センター)



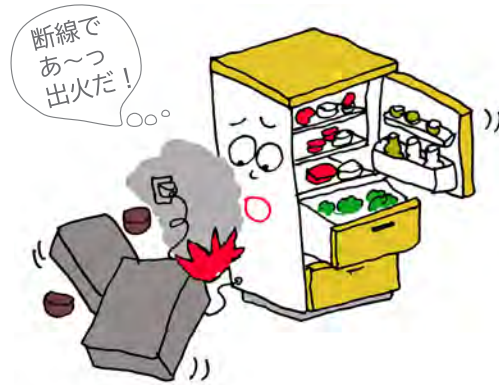
停電復旧時に起こる通電火災を防ぐために

通電火災とは

停電が復旧した時に、地震で倒れた電気ストーブや破損した電気コードに通電されることで起きる火災のこと



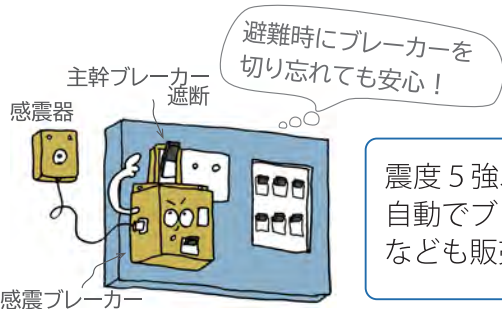
地震で転倒した電気ストーブに衣類などが接触して、停電復旧後に火災が起きる



地震で転倒した物が電気のコードを破損させ、停電復旧後に火災を起こす

避難する前にやるべき事

- ◎コンセントから電源を抜きましょう!
- ◎特に電気ストーブなどの電源は必ず抜きましょう!
- ◎自宅のブレーカーを落としましょう! (レバーOFF)



震度5強以上の地震を感知すると、数分後に自動でブレーカーを落とす「感震ブレーカー」なども販売されています



特定非営利活動法人(NPO)
耐震総合安全機構
Japan Aseismic Safety Organization

本部

〒112-0013
東京都文京区音羽 1-20-16 PAL 音羽ビル7階
TEL: 03-6912-0772 FAX: 03-6912-0773
E-mail: info@jaso.jp URL: https://www.jaso.jp

近畿支部

〒541-0051
大阪府大阪市中央区備後町 2-5-8 綿業会館 4 階
(公社) 日本建築家協会 近畿支部内
TEL: 06-6229-3371 FAX: 06-6229-3374

東海支部

〒464-0075
愛知県名古屋市中区千種区内山 1-17-17
TEL: 052-733-2887 FAX: 052-733-2481



●本部最寄駅：護国寺（東京メトロ有楽町線）